1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800060
法人名	有限会社　ベストライフ
事業所名	グループホーム　はまの里
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町浜２２６番地２ (電　話) ０９４２－６２－３５１３

評価機関名	株式会社アーバン･マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町４－６　北九州ビル８階		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年5月1日

【情報提供票より】(平成２１年３月１７日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤　１６人，非常勤　０人，常勤換算　１４人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火造り
	2階建ての1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000円		その他の経費 (月額)	(水道･光熱費) 8,000円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　780円			

(4) 利用者の概要 (3月１７日現在)

利用者人数	18 名	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	84 歳	最低	70 歳	最高　95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院／田中歯科／藤吉内科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはまの里は、季節には菜の花が咲き誇る筑後川沿いの、のどかな田園風景を有する住宅地の一角に位置している。ホームの前には地域の方々の拠り所である、公園を備えたお宮があり、地域の方々との交流の場として活かしている。法人の代表は、地域への恩返しとして低料金の利用料を設定し、入居者の状況に応じて経済的な面での配慮をしている。地域と良好な関係を築いており、地域の方が入居者を見守っていただく関係を築いている。管理者は就任に伴ない、これまでのケアやサービスを見直し、必要とされるケアやサービスの根拠を検討し、職員と共に日々改善しながらホームとしての役割を果たそうと努力している。代表者の地域貢献の熱意と、管理者･職員の新たな試みが期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 前回の評価では、「評価の意義と活用」「権利擁護に関する制度の理解と活用」「職員の異動等による影響への配慮」「人権教育･啓発活動」などの指摘があり、管理者･職員は、従来のケアやサービスを振り返り、改善すべき点を確認し積極的に改善に向けて取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) 自己評価は一部の職員での実施となったが、ミーティング時に自己評価･外部評価の意義を話しており、職員が理解している。改善内容は改善計画を立て、日々のケアやサービス提供の中で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6) 定期的に2ヶ月に1回、浜公民館で開催している。運営推進会議は地域の方や行政との情報交換の場ととらえ、多様なテーマでの話し合いを行うと共に、出された意見などをふまえ、ケアやサービスの質の向上に活かしている。特に会議の中では、地域との連携に努め、地域の高齢者や一人暮らしの高齢者がホームに遊びに来ていただけるように環境づくりに取り組んでいる。また、地域のボランティアや子ども会の交流などの協力の依頼も行い、地域密着型サービスの役割を果たしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目：外部8，9) 家族の面会が多く、来られた際に意見や不満などを言っていただけるように取り組んでいる。月2回、介護相談員の訪問があり、その際に入居者の意向や希望を聞くだけでなく、家族にも来訪をお願いし、相談や意見などを言っていただけるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 日常的にはホーム前にお宮と公園があり、地域の方とふれあう機会が多い。浜自治会に加入し、地域の運動会や子ども会の行事などに参加し、交流･ふれあいを高めている。いちご農家の協力によりイチゴ狩りに参加したり、区長の畑でじゃが芋掘りを体験したりと地域の方々の協力が多く、ホームも地域密着型サービスとして、地域の高齢者に立ち寄っていただくなど役割を果たすように努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「福祉・人権・教育・環境・平和」を掲げ、「心こそ大切なれ」をモットーに、平等の精神で地域社会に貢献できる施設を目指すとしている。代表者が地域社会への貢献のため、利用しやすい条件などを定め、地域密着型サービスの役割を果たすことに努めている。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図るために、日々理念の唱和を行っている。月1回のミーティングでは、理念にそったケアやサービス提供ができるように、日々の改善に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的にはホーム前にお宮と公園があり、地域の方とふれあう機会が多い。浜自治会に加入し、地域の運動会や子ども会の行事に参加し、交流・ふれあいを高めている。イチゴ農家の協力により、イチゴ狩りに参加したり、区長の畑でじゃが芋掘りを体験したりと地域の方の協力が多く、ホームも地域密着型サービスとして、地域の高齢者に立ち寄っていただくなど役割を果たそうと努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員で行い、ミーティング時に自己評価・外部評価の意義を話しており、職員が理解している。改善内容は改善計画を立て、日々のケアやサービス提供の中で取り組んでいる。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回、浜公民館で開催している。運営推進会議は、地域の方や行政との情報交換の場ととらえ、多様なテーマでの話し合いを行うと共に、出された意見などをふまえ、ケアやサービスの質の向上に活かしている。特に会議の中では、地域との連携に努め、地域の高齢者や一人暮らしの高齢者がホームに遊びに来ていただけるように環境づくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が派遣する介護相談員を受け入れ、市の担当者に事業所便りを持参し現状報告や相談を行い行政との連携を図っている。また、平成20年6月に開催された「小規模多機能ケア全国セミナーin久留米」に参加し、看取り介護の事例として「その人らしく生きて、なくなるまで」の報告を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	管理者は制度について研修を受け、入居時に本人・家族に説明を行っている。職員には勉強会などで伝達しているが、伝達研修の参加の記録がなく記録の充実が求められる。利用する方には、社会福祉協議会と連携を図り支援している。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、入居者一人ひとりの暮らしや健康状態などを写真を付けて手紙と共に郵送している。金銭管理に関しては出納帳のコピーに領収書を添付し郵送している。また、おおむね2ヶ月に1回、事業所便りを発行し、定期的にホームや入居者の状態がわかるように取り組んでいる。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、来られた際に意見や不満などを言っていただけるように取り組んでいる。月2回、介護相談員の訪問があり、その際に入居者の意向や希望を聞くだけでなく、家族にも来訪をお願いし、相談や意見などを言っていただけうように取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は1年以上は定着しており、入居者もゆったりと落ち着いている。やむなく異動や退職が発生した場合は入居者に説明を行っている。新しく職員が採用された場合は、なじみの関係になるまでは、管理者や上司がサポートを行い、入居者のダメージを防いでいる。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用は法人母体が行っている。性別・年齢などを理由に採用対象から外さないようにしている。また、職員のスキルアップを図るために資格取得を目指すなど職員に対しての支援体制がある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	外部の研修参加や伝達研修を行っており、伝達研修の際には、各職員に資料を配布し職員の周知徹底を図っている。今後は行政の開催する人権研修への参加を予定している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のミーティングでは、司会・書記を担当制で行い、職員が発表する機会を設け、管理者がバックアップし、職場内での知識の研鑽を行っている。看取りや緊急時対応など、誰もが自信を持って働けるように適確な処置や手順を学び、訓練などを通して専門的知識や技術を習得できるように取り組んでいる。管理者は職員が研修参加できるように勤務調整などに取り組んでいる。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市長寿介護課や久留米市西包括支援センター、グループホーム協会が主催する勉強会に参加し、情報交換を行い、ネットワークづくりを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者・家族より、何を望まれるかなど話し合いを行い、必要な場合は、体験入居を行うなど無理なく、安心と納得の上で入居していただくように取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「人生の先輩として敬う」ことを基本姿勢とし、傾聴意識を持ち、入居者が得意とする場面をつくり、職員は学ぶことができるように取り組んでいる。職員は入居者より、らっきょや梅干しなどを漬ける方法や料理を学び、職員の料理の腕が上がっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1年前よりセンター方式を採用している。独自の基本情報のフォーマットがあり、生活歴などを含め把握している。また、1日の生活リズム・パターンを24時間生活変化シートで作成し、入居者の状態を把握している。	○	職員の日々の「気づき」などを記録に残し、定期的に分析するなど、本人本位の思いの把握への取り組みに期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき入居者一人ひとりの要望や意向をふまえ、長期目標・短期目標を設定している。職員・家族は、入居者の状態を把握でき、サービス内容なども理解しやすく、わかりやすい表現となっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月ごとのモニタリングを行い、変更が生じた場合は家族と話し合い、状況に応じたプランの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同系列のグループホーム「あおきの里」にリフト車があり、浜地区の運動会や外出の際には大きな力となっている。年1回、「あおきの里」と合同の花見を開催するなど十分なマンパワー確保により楽しみごとを支援している。入居者が最期までなじみの場所・なじみの人達と過ごし、職員と家族に見守られてその時を迎えたいという希望にそって看取り介護に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や在宅療養支援診療所から往診があり、医療面で安心できる体制を整え、医療連携が密に行われ、服薬管理や副作用対応など相談しながら健康管理を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護に取り組みはじめて1年が経過している。。重度化した場合や終末期のあり方については早い時期から家族と話合い、医師・家族・施設間で方針を共有し、看取り介護に取り組んでいる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議議事録に「もう一度、職員が見直す事柄」として認知症の症状に対し言葉と対応を確認している。その中で入居者を「私たちよりも年上の大先輩です」と確認し、基本の言葉づかい・言ってはいけない言葉など検討している。日々の暮らしの中で入居者の視線に合わせた声かけや希望にそった呼称、ゆっくりとした会話で一人ひとりを尊重した対応を行うように指導している。介護記録などの取り扱いは一元的に管理・保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操は日課であるが、一人ひとりのペースに合った支援を行っている。入居者のこれまでの生活歴を活かし、高菜の野菜作り、らっきょ・梅干し漬け、鵜滑稽の世話など、入居者が喜びと生きがいを持って役割を果たしていただけるように支援している。日課である体操は、入居者はできる範囲で行っていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調査当日は、入居者が大量のツクシのハカマを雑談しながら楽しそうにとっていた。日々の暮らしの中で、入居者は野菜の整理や、らっきょ・梅干し・白菜漬けなどを楽しみながら手伝っている。職員は、メニューや盛り付けに配慮し、同じテーブルで同じ食事を一緒に食べ、会話を楽しみながら食事を支援している。また、近郊にイチゴの生産者がおり、出荷後の苺を大量に差し入れて下さり、そのイチゴでジヤム作りも楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めずその日の希望を確認し、1・2階隔日入浴介助を行っている。入浴拒否や入浴不可の方には清拭等で対応し、清潔を維持できるよう支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の経験や知恵を発揮する機会や、一緒に行うことでできる役割分担など、状況に応じて入居者の能力が発揮でき、生き生き暮らせるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子でのホーム周辺の散歩や、ホーム前のお宮での日なたぼっこなど、心身の活性化につながるように支援している。また、地域行事などに参加し、外出を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は、日中は施錠していない。入居者が外出する際には、見守りを強化している。今後、一人で外出を好まれる入居者には、身元が判明するホーム独自の証明書など本人が持参できる工夫が望まれる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同系列のグループホーム「あおきの里」と合同で、年2回防災訓練を行っている。現在、区長に働きかけて地域住民の訓練への協力・参加をお願いする予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の形態や量は、個々の状態に応じた食事を提供している。塩分制限のある方、糖尿病のある方には食事量をコントロールしている。現在は、健康になり、食事制限を中止した方もいる。1日の水分摂取量は記録し把握している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は日当たりがよく、明るく清潔感があり、ゆったりと過ごすことができる。窓からは、のどかな田園風景を眺めることができ、居心地のよい空間となっている。1階の共用空間は、重度化に対応しベッドを置き、カーテンで囲めるようになっている。状態変化に応じて、対応できる工夫がある。玄関や洗面所・トイレなどには花やグリーンがあり、季節感を感じる家庭的な空間となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階・2階の居室の入り口には、手作りの表札があり、居室は一人ひとりの好みの家具（テレビ・タンス・仏壇・冷蔵庫など）を持ち込み、自由にレイアウトしている。入居者の意向にそって畳を敷く居室もあり、入居者それぞれが居心地よく過ごせるように支援している。		